

数々の賞を受賞する台湾発のフィットネスマシン、日本上陸

インテンザフィットネス

マシンの進化が止まらない。かつては必要最低限の機能を備え、その利用方法は限定されたものであった。今では様々な機能が搭載され、サーキットトレーニング始めマシンが主役の時代となりつつある。そのようななか、2017年、高性能とデザイン性で世界66ヶ国に製品を提供する台湾発のインテンザフィットネスが日本に上陸し、注目を集めている。

新しい価値提供に取り組む

インテンザフィットネスは、2012年に台湾にて設立されたフィットネスマシンメーカー、ヘルスストリーム社のプレミアムブランド。「HOW FITNESS SHOULD FEEL」をテーマに、マシンを通して一人ひとりが快適と感じるフィットネスライフを発見してもらえるように、開発に取り組んでいる。

始まりは小さな貿易業を営む会社として、長年、ODM (Original Design Manufacturing) にてマシンの開発に取り組んできた同社。そこで技術や知識を蓄積し、満を持して自社ブランドを設立した。性能はもちろん、高いデザイン性を実現した製品は評判を呼び、これまでにアメリカやドイツ、韓国、シンガポールに拠点を開設。世界66ヶ国にわたるフィットネス施設や住宅、大学などに製品を提供してきた。そして17年には、ついに日本支社を設立。

同社代表のマーク・チャン氏は同社の理念について「私は『用心突破、創新価値』（一心で新たな道を切り開き、新しい価値を生み出す）ことを理念に20年間取り組んできました。そしてその理念を私自身が世界をまわり、各国で働くスタッフにも伝えていきます。ユーザーの皆さまにもこの理念に共感いただくことで、我々のブランドに信

頼を寄せていただけたらうれしいです」と話している。

同氏が「ブランドの差別化は経営者としての最大の課題」と語るように、同社のマシンは「オリジナリティ」「創造性」「デザイン」「品質」において付加価値を生み出すことを意識して開発されている。細部に至るまでのこだわりが伝わるからこそ、ブランド価値が世界的に認められてきたのだろう。

「当社のマシンを使うことで、フィットネスが習慣化していない方にも、その楽しさ、面白さが伝わることを願っています。そして、それぞれが自身に適した快適なフィットネスライフを見つけていただきたいと願っています」（チャン氏）

ODMで磨き上げた技術

同社の強みはなんといっても20年間、フィットネスマシンのODMで磨いた知識と経験を活かした、オリジナリティあふれる製品開発だろう。その代表が、'18年に発売された、世界初となる、ステップの高さと傾斜を調整できる『エスカレートステアクライマー 550 Ce2』（写真1）。下半身や心肺機能を効率的に強化できるステアクライマーは海外の施設ではよく目にするものの、日本ではあまり見かけることがなかった。

「これまでのマシンは、日本を含めたアジア人の小柄な体型に適していなかったのです。また、身体的な問題で使用できない方もたくさんいました。そこで、我々はよりどなたでも楽しめるように、利用者の歩幅によってステップの高さや傾斜を調整できるようにしました。これにより、それぞれが自分に適したトレーニング強度を設定できるようになりました。この革新性が話題となり、'17・'18年Taiwan Excellence (台湾エクセレンス賞)では、

◆写真1



『デザイン』『研究開発』『品質』『マーケティング』の4部門において最高ランクの評価をいただきました。さらに'18年にドイツのRed Dot製品設計賞、グローバルプロダクトデザイン賞も受賞することができました」（チャン氏）

同マシンには、タッチパネル式のコンソールにも特徴がある。内蔵しているIntenzacast™（インテンザキャスト）機能により、ユーザーのスマホやタブレットなどモバイルデバイスの画面をそのままコンソールに映し出すことができるのである（P00写真2）。これにより、さらにパーソナライズしたフィットネス体験を提供し、より楽しいトレーニングを可能にした。

自然に優しいマシン

チャン氏が「インテンザ製品の特徴の1つが、流線型のアルミフレームに代表されるスタイリッシュなデザインです（P00写真3）。当社の技術力を集結して生み出したもので、ほかにはまねのできないものであると自信を持っています」と語るように、これまでのマシンにあまり見られなかった高いデザイン性は、先の受賞に現れるように高く評価されている。その製品を

生み出しているのが、'13年に台湾・台南に建設した最新工場だ。トヨタ生産方式とインダストリー 4.0の考えを参考に、徹底したコストカットとIT化を実施。ロボットによる溶接や、自動車業界レベルの塗装ライン、無人搬送システムなど、効率化を図りながらも高い品質を実現することが可能となっている。

「出荷後、もし問題が発生した際にも30分以内にすべての生産履歴を洗い出すことができます。また、この工場の生産ラインは毎年国際品質規格 (ISO9001:2015) も取得しています」(チャン氏)

さらに同社が意識しているのが、環境への配慮だ。マシンを通じて人々に健康や幸せを提供する企業として、自然環境への配慮は欠かせないと考えて

いるのである。工場の屋上には太陽光パネルを設置し、太陽光発電を利用するほか、雨水のリサイクルも実施。自然換気ができるよう、天井も高めに設計されている。日中は電灯が不要なほど明るい自然光が降り注ぎ、窓が西向きに設置されていることもあり、空調なしでも室外より約10度低い温度を保てるという(写真4)。このようにしてエネルギー効率100%を実現しながら、熱帯気候の台南においても、従業員が快適に働ける職場環境を提供しているのだ。

施設側にとっては、導入後のアフターフォローは重要だが、同社ではその部分においても重要視している。上記でも記したように、生産時の厳しい品質管理に加え、製品自体にAI機能を導入。マシンに異常が発生した際には、

自動的にサービスエンジニアにエラーコードを送信することで、素早く問題点を突き止め、迅速な修復対応が可能としている。

最後にチャン氏は次のように述べている。

「フィットネス業界が多様化するなかで、ユーザーは、会費ではなく自分のライフスタイルに合ったクラブを選択するようになりました。我々も、高いブランド価値や、卓越した設計と魅力あるデザインを実現することで、より多様性のある、そしてエンタテインメント性が高いフィットネス体験を提供していきたいと思います」

目的や年齢に限らず、様々なユーザーが利用しやすいマシンは、日本でも多くのユーザーや施設を魅了しているそうだ。

◆写真2



◆写真3



◆写真4



<導入事例>

■クロスフィットハートアンドビューティ オーナー/リーボックマスタートレーナー ニコラス・ペタス氏

歩く・走る・飛ぶなどの様々な動作を高い強度で行うことで、基礎体力のアップや全身の機能向上をもたらすクロスフィット。爽快感と利用者たちの引き締まった身体が話題となり、若者を中心に高い人気を誇っている。同店では2月、新たにインテンザフィットネスのトレッドミルやインドアバイク、ステアクライマーを導入し、トレーニングのバリエーションを大きく広げることに成功した。オーナーのニコラス・ペタス氏は、その魅力を次のように語っている。

「会員が連れてきた子どもたちでも直観で使えたほどのわかりやすい操作性ながら、本格的なトレーニングも行えることです。当社は海外の方の利用も多く、身長190cm、体重が100kgを超える体型の方なども普通です。従来のトレッドミルではその重さに耐えきれずに回転率が落ちてしまいダッシュができなかったのですが、インテンザフィットネスのマシンは

まったく問題ありません。左右に人工関節を入れている私だからこそわかる、滑らかな乗り心地や、20ヶ国語にも対応するコンソールも当社にはありがたいです」

なかでもステアクライマーについては、その外見からも、会員の大きな興味を惹いたようだ。

「今、女性に人気のヒップを鍛えるトレーニングにも最適ですし、何よりわずか10分程度で汗が滴るほどの運動量を得られるのがいいですね。当社ではウォーミングアップなどにも利用いただいています」

このエスカレート、重りを入れたパワーベストを着用して行うことで、より高いトレーニング効果を得られるようになっている。なかにはなんと30kgもの重りを入れてトレーニングを行い、ドバイで開催された「スパルタンレース」の年齢別で優勝を飾った会員もいるという。ペタス氏も、毎日欠かさず利用しているそうだ。



なお、マシンのイメージはそのまま施設のイメージにもつながる。会員が「ここでトレーニングしたい」と思えるようなクールなデザインであることも、ペタス氏を魅了している要因の1つだ。同氏は「豊富な機能を利用することで、今後も常に新鮮なトレーニングを会員に提供していきたいと思います」と、自身も積極的に利用しながら、新たなトレーニングを開発していきたいと語っていた。